

《 基準編》

1 公共サイン配置の基準

1 公共サインの配置の基準

戸田市の補助幹線道路および主要生活道路は、狭い幅員のものが多くみられる。そのような中で、自転車利用が多いことが特徴としてあげられ、これに対応した公共サイン配置の基準が望まれる。

また今後、持続性をもって公共サインを機能させるためユニバーサルデザインへの対応が必須であり、特に高齢者や障害者が実際に使える公共サインを配置するには、点的な整備でなく、エリア単位での公共サイン整備が求められる。

設置間隔

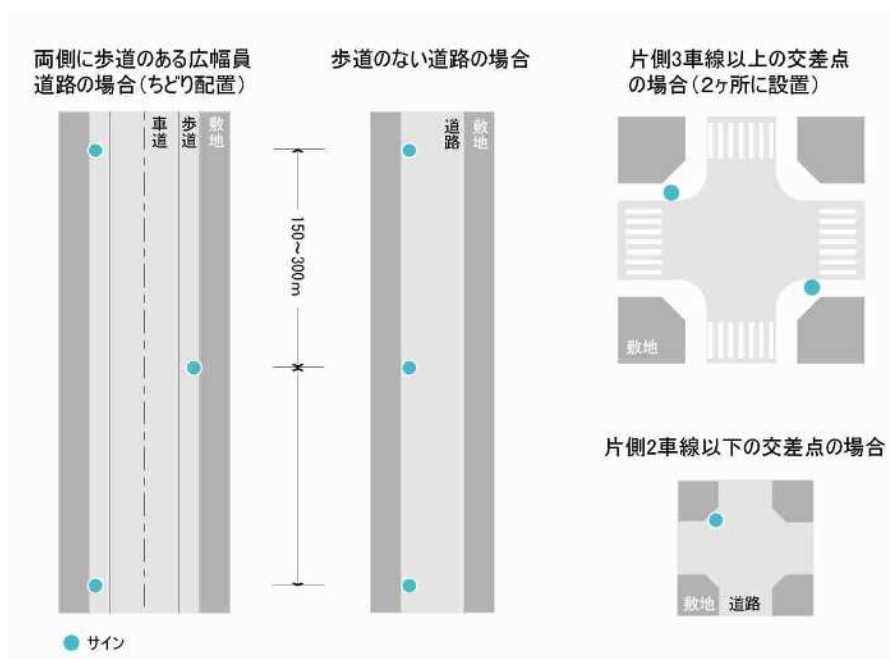
〔案内サイン〕

全市総合案内サイン等については、駅や市役所等の大拠点に設置する。

地区案内サインや観光ルート案内サイン等については、地区の特性や来訪者の状況等、需要に応じて設置する。

〔誘導サイン〕

誘導施設への経路上の進路分岐点に設置することとし、設置間隔は 150m ~ 300m の範囲を目安とする。



設置位置

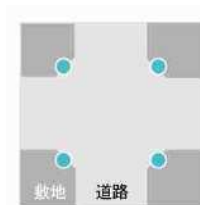
〔案内サイン・誘導サイン〕

道路幅員の狭さ、交通量の多さに配慮し、交通の妨げにならないよう、敷地側に民間サインが林立する国道の一部や、街路樹が目隠しになってしまう道路等を除き、道路の敷地境界寄りに設置する。



〔街角サイン〕

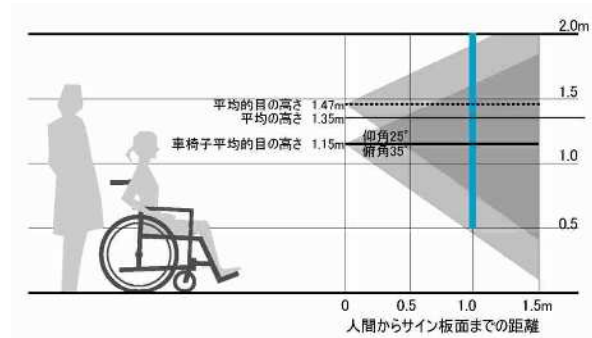
基本的には、道路の交差点所に設置するが、条件が整わない場合は、できるだけ目に付く場所に設置する。



表示の高さ

〔歩行者用 / 案内サイン・誘導サイン・街角サイン〕

標準的な高さに準じ、1.35mを中心に最高高さ 2m、最低高さ 0.5mの範囲を基本とする。



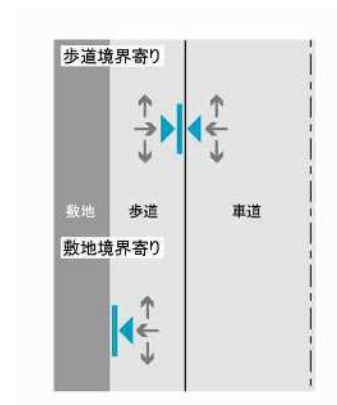
〔歩車共用 / 案内サイン・誘導サイン・街角サイン〕

比較的幅員の狭い生活道路等に設置する場合、建築限界に配慮し、下限を 2.5mとする。

表示の向き

〔案内サイン・誘導サイン・街角サイン〕

交通の妨げにならないよう、概ね歩道幅員 2.5m未満の道路においては、道路に対して平行に設置する。



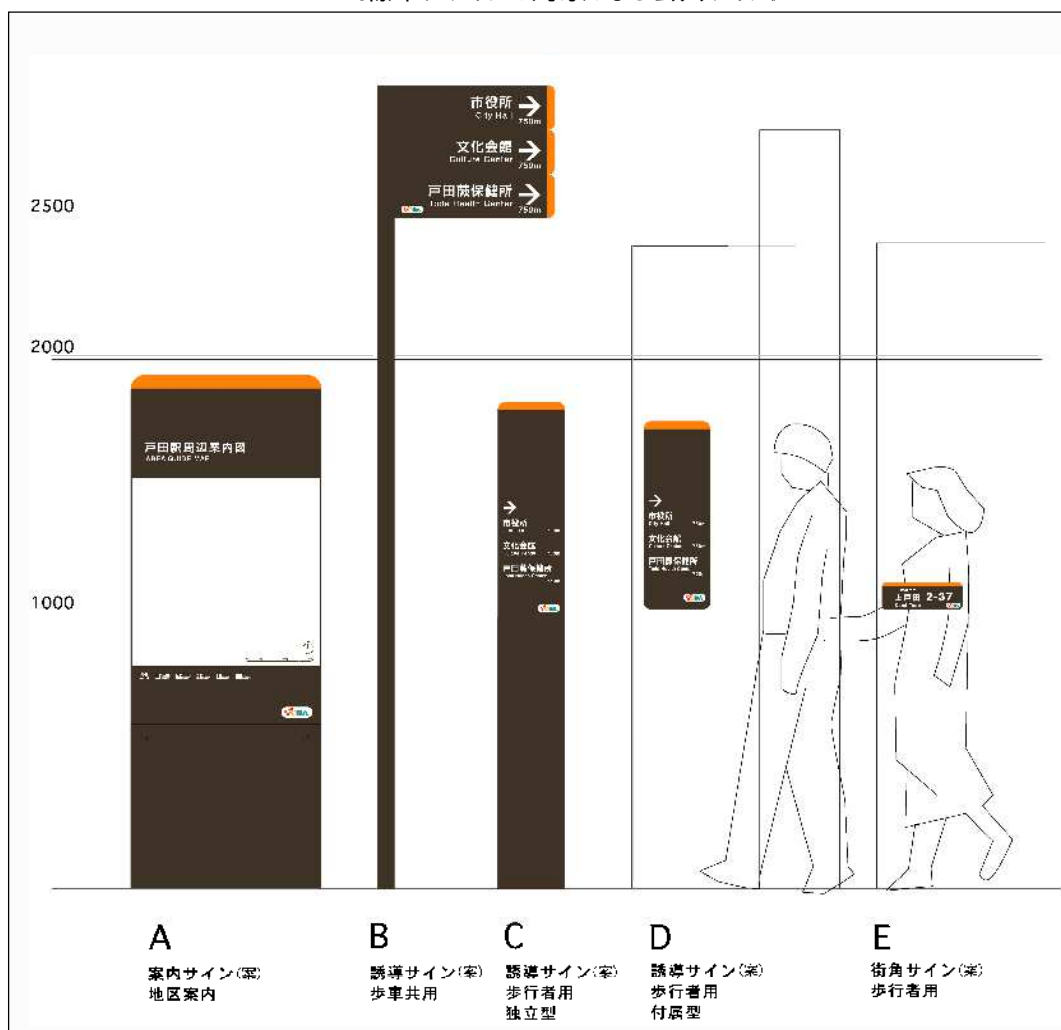
2 公共サインの標準デザイン

1 標準デザインの対象

誘導サイン、案内サイン、街角サイン(町丁目を記号化して表記したサイン)については、利用者が不特定多数であること、設置が全市域にわたり、設置数が多いため、まち並みに与える影響が大きいことから、公共サイン本体・支持体のデザインを統一化することが望ましく、標準デザインを設定する。なお、実際の実施に向けては、さらに詳細な検討が必要となる。

その他、施設の建築デザイン、サインへの掲載情報に即してデザインすることが望ましい公共サインについては、「3 公共サインのデザインの基準」を参考に個別にデザインする。

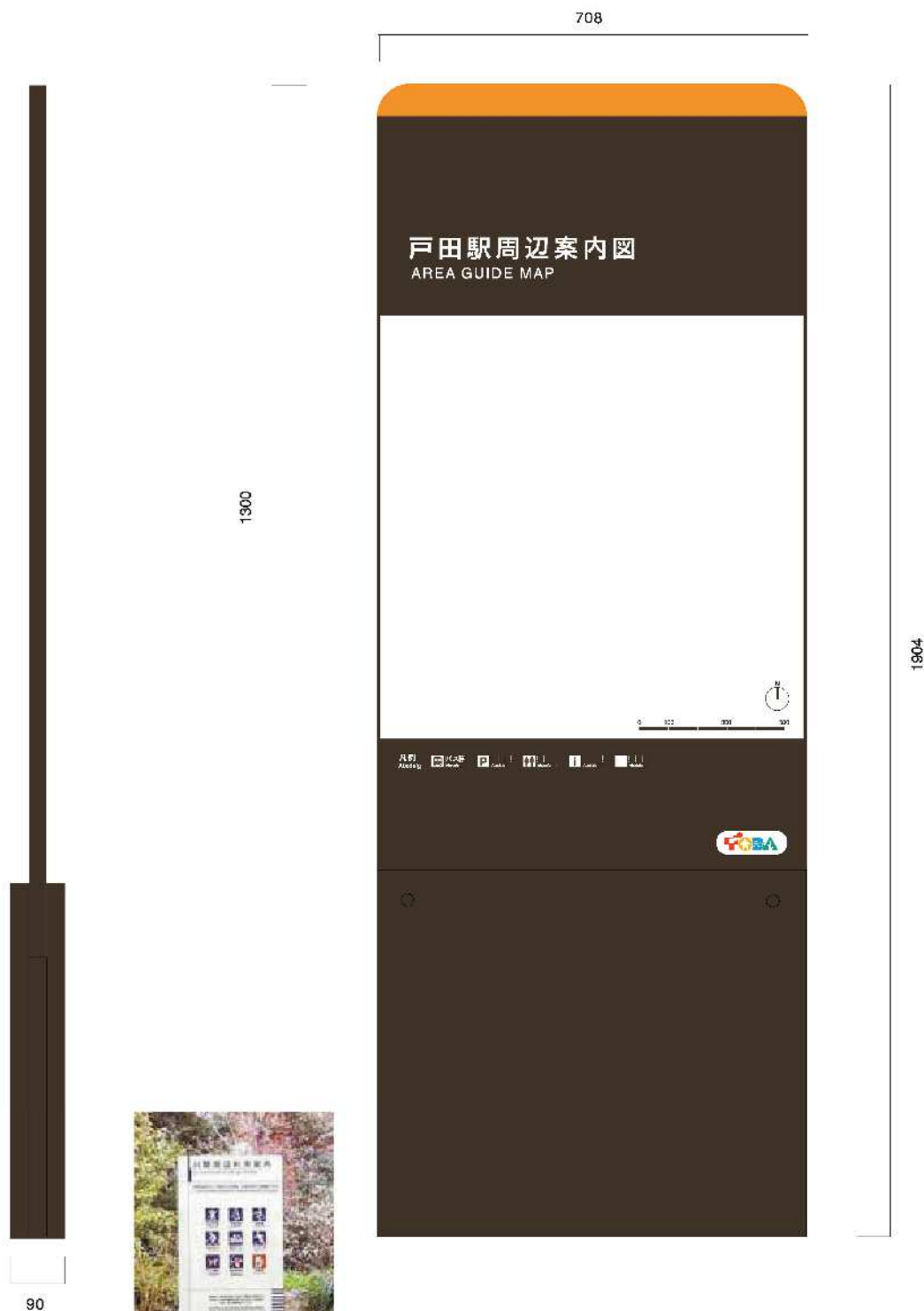
(標準デザインの対象となる公共サイン)



2 本体・支持体の標準デザイン

A 案内サイン(案) 地区案内

印刷による色再現のため、実際の色とは異なります。



「アバンセ」
UC-322300
特注部分

本体

アルミ合金鋳物を平面がフラットなアルミ板に変更
ベースカラーを使用

表示面

ベースカラーを使用

B 誘導サイン(案) 歩車共用

印刷による色再現のため、実際の色とは異なります。



C 誘導サイン(案) 歩行者用 (独立型)

印刷による色再現のため、実際の色とは異なります。



「アバンセ」
UC-322600
特注部分
案内サインと同様に変更



S=1 : 10

D 誘導サイン(案) 歩行者用 (付属型)

印刷による色再現のため、実際の色とは異なります。

1施設誘導



2施設誘導



3施設誘導



250

E 街角サイン(案) 歩行者用

印刷による色再現のため、実際の色とは異なります。



3 表示面の標準デザイン

A 案内サイン(案) 地区案内

表示面レイアウト

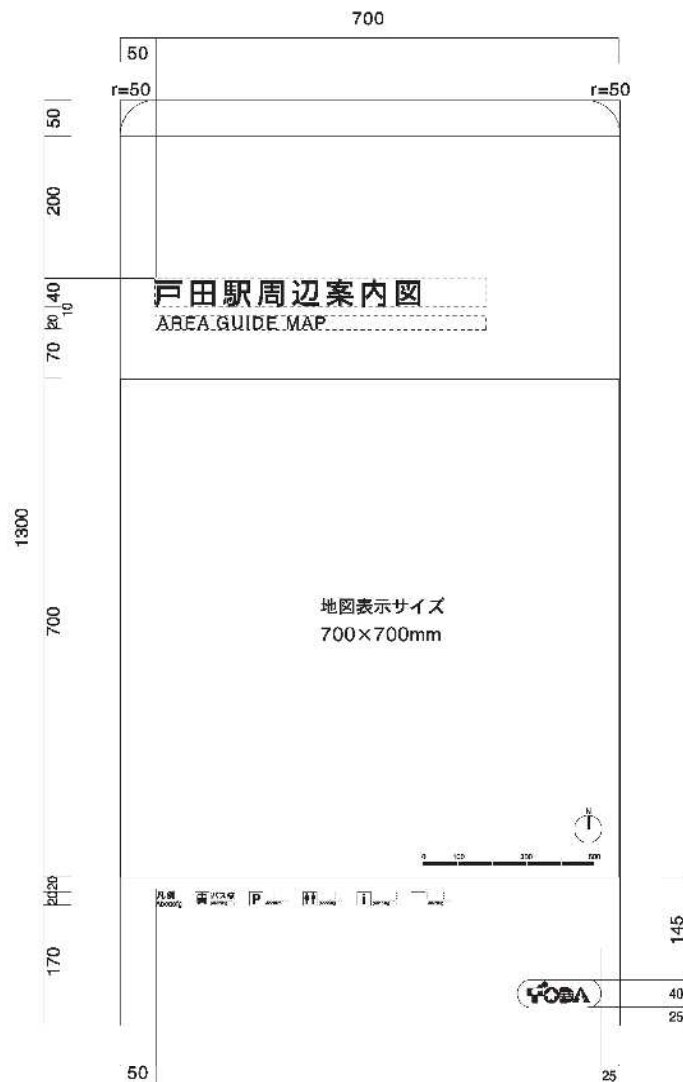
- 見出しの日本語表記は最大10文字とする。
11文字以上となり規定のスペースに入らない場合には、長体1.2として調整する。
- 通常のレイアウトでは文字間隔を文字幅の20%とする。
- 地図表示に用いる文字は和文で6mm、英文で4mm以上の文字高を確保する。

使用
書体

- 和文 新ゴM (ゴナDB)
- 英文 ヘルベチカレギュラー



○地図表示に用いる文字の最小基準文字高



- 施設名の日本語表記は最大8文字とする。
9文字以上となり規定のスペースに入らない場合には、長体1.2として調整する。
- 通常のレイアウトでは文字間隔を文字幅の20%とする。

使用
書体 ○和文 新ゴM(ゴナDB)
○英文 ヘルベチカレギュラー

① 1施設誘導



○矢印が直進又は右折方向の時は「右揃え」



○矢印が左折方向の時は「左揃え」

② 2施設誘導



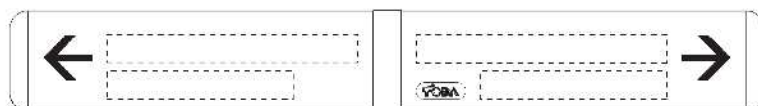
③ 3施設誘導



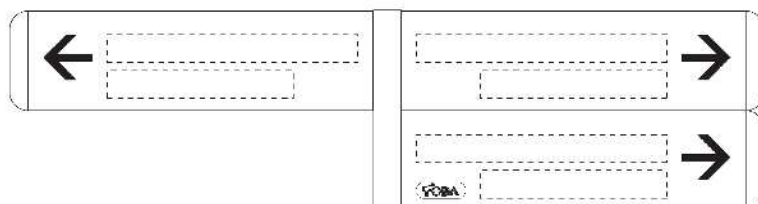
マークの扱い方

S=1:10

- 左右同じ数の矢羽の場合は右折に付ける。



- 矢羽の多い方に付ける。



- 施設名の日本語表記は最大7文字とする。
8文字以上となり規定のスペースに入らない場合には、長体1.2として調整する。
- 通常のレイアウトでは文字間隔を文字幅の10%とする。
- 英字表記が規定のラインより多い場合、距離数字を下のスペースに配置する。

8文字を長体1で調整

医療保健センター

使用
書体

○和文 新ゴM (ゴナDB)
○英文 ヘルベチカレギュラー

Abcdefghijklmn 750m

Abcdefghijklmnopqrstuvw 750m

規定ライン

① 2施設が同一方向の場合



② 2施設が別方向の場合



① 3施設が同一方向の場合



② 3施設が別方向の場合



※2施設が同方向で、1施設が別方向の場合も上記レイアウト法則に基づき作成

S=1:10

- 施設名の日本語表記は最大7文字とする。
8文字以上となり規定のスペースに入らない場合には、
長体1.2として調整する。
- 通常のレイアウトでは文字間隔を文字幅の10%とする。
- 英字表記が規定のラインより多い場合、
距離数字を下のスペースに配置する。

使用 ○和文 新ゴM (ゴナDB)
書体 ○英文 ヘルベチカレギュラー

① 1施設誘導の場合



① 2施設が同一方向の場合



② 2施設が別方向の場合



① 3施設が同一方向の場合



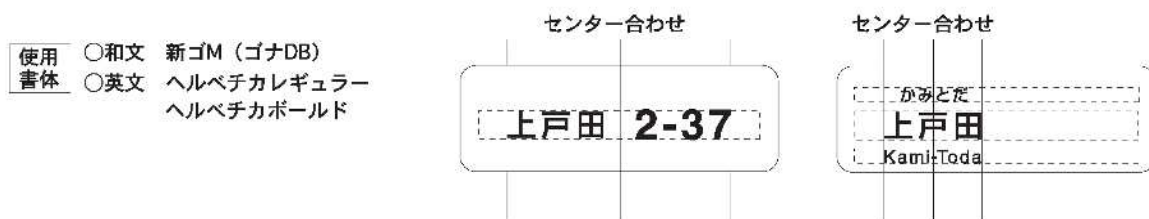
② 3施設が別方向の場合



※2施設が同方向で、1施設が別方向の場合も上記レイアウト法則に基づき作成

S=1:10

- 漢字地名2文字の場合は、文字と文字の間を1文字空け、3文字とする。
- 漢字地名と英数字の間は1文字空け、全体のセンターに合わせる。
- 地名のひらがなとローマ字は、漢字のセンターに合わせる。
- 規定のスペースに入らない場合は、文字間隔を文字幅の20%、10%として調整する。
- 通常のレイアウトでは文字間隔を文字幅の20%とする。



① 漢字地名2文字の場合



② 漢字地名3文字の場合



③ 漢字地名4文字の場合



S=1:5

3 公共サインのデザインの基準

1 デザインの基準の対象

施設の建築デザイン、掲載情報に即してデザインすることが望ましい公共サインについては、この章に示すデザインの基準を参考に、個別にデザインする。

〈デザインの基準の対象となる公共サインの例〉

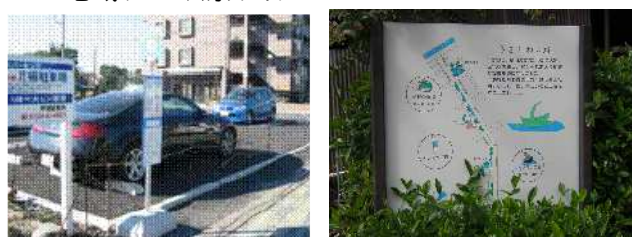
A 定点サイン



B 規制・説明・啓発サイン



C 地域サービスサイン



2 本体・支持体のデザインの基準

公共サイン間の関係を明確にする

〔デザインを共通化する場合〕

連続景観をつくりだせるとともに、サインの存在が認識されやすいため整備の効果が高まる。
ただし、やや画一的な展開となる可能性もある。



〔デザインを差別化する場合〕

利用者は、一見して、その情報の種類や場所の位置づけがある程度予知できるようになる。
ただし、バリエーションが増えすぎると、利用者を混乱させる。



背景との関係に配慮する

〔背景に馴染ませる場合〕

本体の存在感を感じさせない造形の工夫や、素材色や彩度を落とした塗装などによって、周辺との調和を図ることができる。



〔背景と対比させる場合〕

存在感のあるデザインによって、街並みを整えたり、景観要素を付加することができる。また、人をある方向に導いたりすることも可能である。



提供情報の複合化も考慮に入れる

サインの氾濫による情報伝達効果の低減や、景観の阻害を防ぐ。

〔同種情報の複合化〕（通り名称＋案内図、誘導標識＋案内図 等）

同種類の情報を合わせて提供することにより、目的地と現在地の位置関係をルートや距離等、多方面から確認することができ、情報の相乗効果が高まる。

〔異種情報の複合化〕（規制標識＋案内図、規制標識＋誘導標識 等）

求められる視認性や管理者は異なるが、サインの高密度な地域で景観を整える効果大きい。

〔サイン以外の要素との複合化〕（サイン＋照明、サイン＋バス停 等）

バス停のベンチや街路灯といったストリートファニチャーと合わせて整備することにより、面的に景観を整えることができる。

架構型式

情報の種類や情報量、設置場所、利用者の特性を十分に勘案し、架構型式を選定する。

架構型式		利 点	欠 点
壁付型		柱が不要であり、空間を有効利用できる	× 表示面の大きさが限られる
一本柱型		軽快な印象を与える 狭い場所に設置可能 安価	× デザインによっては、安易なイメージを与える × 大きな表示面は不向き × 突出部分があり、配慮が必要
二本柱型		軽快かつ安定感のある印象を与える	× デザインによっては、安易なイメージを与える
壁型		安定感を与える 注視性が高い	× 視線を完全に遮るため、視覚的な開放感がない × やや重い印象を与える
平面型		視覚的な障害にりにくい 見やすい	× 設置場所が限られる × 表示面がやや汚れやすい
箱型		視覚的な障害にりにくい 見やすい	× 広い設置スペースが必要 × 重いイメージを与える × 高価になりやすい
羽根型		360 度方向視差が可能であり、誘導方向が明確になる	× 設置場所によっては、通行の妨げになる
棒型		狭い場所に設置可能	× 表示面が狭く、掲出する情報が限られている
逆 L・F 型		道路空間において視認性が高い	× 周辺の木々、景観に不調和になりやすい
路面型		設置場所に制限がない 周辺景観との協調性が高い	× 視認性に欠ける × 情報量が限られる × デザインによっては、安易なイメージを与える × 汚れ等に対する表示面の維持に手間がかかる
吊下型		柱が不要であり、空間を有効利用できる 人が多くても視認性が高い	× 表示面の大きさが限られる

素材

以下の5項目を選定指標とし、個々の公共サインの機能や設置場所、情報更新の周期等に配慮しながら、素材を選択する。

周辺のまちなみや、設置する建造物に調和した素材

一度に複数の製作が必要となるサインについては、その加工性や量産性が高い素材

耐久性が高く、美観的に維持しやすい素材

維持管理や情報更新の容易な素材

環境負荷の少ない素材、再生可能な素材

《本体・支持体の素材》

素 材	特 徴
石材	耐久性に優れている。鉱物の種類、仕上げ加工により表情に違いが出る。ただし、コスト的に高価で、生産力に乏しい。
木材	自然素材を生かした表現に使われることが多い。表面劣化防止のため、防腐加工、塗装塗り替えなどが必要である。また、耐久性の向上のため、定期的塗り替え等のメンテナンスが重要となる。
鉄鋼	十分な強度を有し、加工性、成型性に優れ、経済性も高い。ただし耐久性保持には、防錆処理や塗装等が必要である。
ステンレス鋼	強度は他の鋼材より優れているが、加工性は劣る。また、他鋼材より圧倒的に錆びにくい、環境により錆びることがあり注意が必要である。経済性は低い。
アルミニウム合金	軽量で、加工性は高いが、鋼材に比べ強度が弱い。被削性、耐摩耗性は弱く、アルマイト処理により、表面硬度を高める必要がある。
コンクリート	簡素な表現に適した素材で、安価である。表面の仕上げにより、多様な表情を出すことができる。
陶器・磁器	独特の風格をもち、経年変化による劣化がなく、耐久性が高い。ただし、破損しやすい弱点がある。

《表示面の表示方法》

表示方法	特徴
印刷	シルクスクリーン、クロマリン、サーマル(熱転写印刷、昇華型印刷)印刷などがあり、クロマリン印刷は耐候性、精細な表現性能は高いが、高価である。シルクスクリーン印刷は色彩別に版を作るため、色数が多いとコスト高となる。
彫刻	木材、金属、石材、ガラス等で使われる方法で、表現の自由度に制限はあるが、材料の特性に応じた味わいある表情が得られる。また、耐久性は高いが、内容の変更等は難しい。
切り文字等	厚みを持った各種の素材を文字等の形にカットして壁面に取り付ける手法。地図等の細かな表現には向かないが、施設名称等の大きなものは立体的で存在感がでる。その他、文字等を金属板やプラスチック板によって箱型に加工する箱文字がある。

3 表示面のデザインの基準

使用書体

〔和文〕

可読性、加工性に優れており、縦組み、横組みともに手詰めの必要がほとんどなく、メンテナンスにも容易に対応できる利点を持っている「ゴシック系・ゴナ体(新ゴシック)」を原則として用いる。
なお、日本文字らしい表情等が必要な場合は、明朝系の「リュウミン」を原則として用いる。

（ゴナ体(新ゴ)）



（リュウミン）



〔英文〕

和文のゴシック系と合わせて使用する場合、「ヘルベチカ」が適当である。なお、明朝系の「リュウミン」と合わせて使用する場合は、「ギャラモンド」を原則として用いる。

（ヘルベチカ）



（「リュウミン」と合わせて使用する場合）



〔数字〕

数字は、英文に準ずる。また、和英のバランスをとるため、和文中の数字であっても対応する英文書体のものを使用する。

文字の大きさ

判読に必要な文字の大きさは、利用者の視認距離と移動速度に応じて、下表を参考とする。
 なお、英文については、やむをえない場合は、大文字天地が和文の 1/2 以上とする。
 また、文字数が多くて表示面に文字が納まらない場合は、和文文字について 20% (長体 2) を
 限度に長体を使用してもよい。

(公共交通機関旅客施設の移動円滑化ガイドラインより抜粋)

視認距離	和文文字高	英文文字高
30m の場合	120mm 以上	90mm 以上
20m の場合	80mm 以上	60mm 以上
10m の場合	40mm 以上	30mm 以上
4～5m の場合	20mm 以上	15mm 以上
1～2m の場合	9mm 以上	7mm 以上

視認距離 30～50m = 歩車共用の誘導サインなど

視認距離 20m 以上 = 遠くから視認する吊り下げ型等の誘導サインなど

視認距離 10m 程度 = 案内サインの見出しなど

視認距離 4～5m 以下 = 近くから視認する自立型や壁付き型等の案内サインなど

ピクトグラム

できるだけ国際的にコード化されているものを使うこととし、原則として、ISO (国際標準化機構)
 基準に準拠した標準的なピクトグラムを使用し、独自のものはできるだけ避ける。

(概ね ISO (国際標準化機構) 基準に準拠した標準的なピクトグラム)

(情報コーナーの
 ピクトグラム)
 JIS 案内用図記号

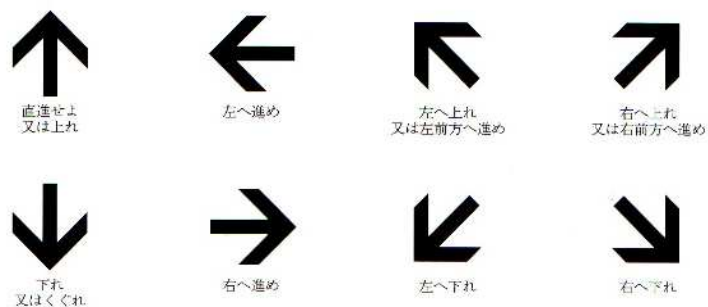


矢印・現在地・方位・スケール

〔矢印〕

矢印は、アメリカ運輸省(USDOT)が採用制定した「AIGAのシンボル」を用いる。

(アメリカ運輸省(USDOT)が採用制定した「AIGAのシンボル」にある矢印)



〔現在地・方位・スケール〕

現在地、方位、スケールは、標準デザインを設定する。

〔現在地〕

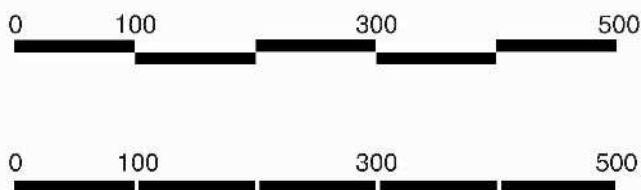


現在地のマークの基本色は、5R4/14 とし、地図の色調に合った赤系の色を選ぶ

〔方位〕



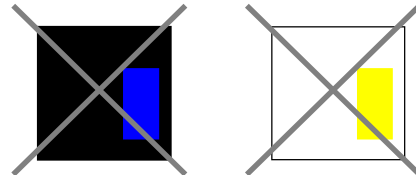
〔スケール〕



色彩

〔視認性の確保〕

原則として、地色と図色との関係においては、JIS標準案内用図記号に準拠し、明度差5程度以上を確保する。また、色覚障害への配慮も必要であり、例えば、高齢者に多い白内障患者が識別困難となる「黒と青」「黄と白」等の組み合わせについては、「道路の移動円滑化ガイドライン」に準拠し、できるだけ使用しないようにする。



〔道路標識令等で規定される色彩への配慮〕

道路標識令で規定される標識は、法律により色の使用が規定されており、これと混同するような色彩は避けることが望ましい。

〔配色例〕

高齢者の視認性の確保(明度差5程度)と、[基本計画編 4 公共サインデザインの基本的考え方 2 公共サインのカラーコンセプト] におけるサインカラーの設定に基づき、公共サインの推奨配色例を提示する。

配色	配 色 例 <small>印刷による色再現のため、実際の色とは異なります。</small>		マンセル値(DIC)	明度差
1		地色 図色	N9.5 10YR2/1	7.5
2		地色 図色	10YR2/1 N9.5	7.5
3		地色 図色	10YR2/1 10BG6/8	4.0
4		地色 図色	10YR2/1 2.5RP6/12	4.0
5		地色 図色	10YR2/1 5YR7/14	5.0
6		地色 図色	10YR2/1 5P6/8	4.0
7		地色 図色	10YR2/1 5GY7/10	5.0

(については、アクセントカラーとして用いる場合に限り)

表記の基準

〔日本語の表記基準〕

主に施設の名称表記について、簡潔な表現のため、施設名称を必要に応じて簡略化する。知名度の高い施設ほど、簡略化する傾向にあり、また、数字や表記の紀年の表記などは、混乱を避けるために一貫した表記を行う。

《日本語の表記基準》

表記の基準	具体例
<p>原則として国文法、現代かなづかいによる表記を行う。ただし、固有名詞においてはこの限りでない。</p> <p>漢字は当用漢字、仮名はひらがな、外来語はカタカナ、数字は算用数字による表記を原則とする。</p>	
<p>（施設の名称）</p> <p>表示面の煩雑化を防ぐために、明確に理解される範囲内で部分的に省略を行う。</p> <p>正式名称よりも明らかに理解されやすい通称名がある場合はそれを用いてもよい。</p> <p>複合的な施設の場合は、目的に応じて部分的な省略を行う。</p> <p>アルファベットによる名称が慣用化されている場合は、それを用いてもよい。</p> <p>類似の施設が多く、混乱を招く可能性がある場合は、正式名称を用いる。</p> <p>町丁名の表記に関しては、「戸田市町区域要覧」にしたがう。ただし、煩雑化を防ぐために、明確に理解される範囲内で部分的に省略することができる。</p>	<p>戸田市文化会館</p> <p>文化会館</p> <p>戸田市立児童センター</p> <p>プリムローズ</p> <p>J R N T T</p> <p>新曽公民館 美笹公民館</p> <p>上戸田 1 丁目</p> <p>上戸田 1</p>
<p>（数字の表記）</p> <p>原則として算用数字を用いる。ただし、固有名詞として用いる場合はこの限りでない。</p>	<p>9 月 30 日</p>
<p>地名、歴史上の人名など読みにくい漢字には、ふりがなを付記するなどの配慮を行う。</p>	<p>びじょぎ 美女木</p>
<p>紀年は西暦により表記する。必要に応じて日本年号を付記してもよい。</p>	<p>2004 年 2004 年(平成 16 年)</p>

〔外国語の表記基準〕

サインに表記する用語には、日本語に加え英語を併記する。英語の表記は、原則的に英語とローマ字の組み合わせとなるが、ローマ字は一般的なヘボン式を基本に、長音記号を組み合わせるなど、正確に情報を伝えるために改良を加えることとする。

上記言語に追加して、英語以外の外国語が必要な場合、地域ごとの利用者の事情によって行ってもよいこととする。また、英語圏以外の外国人利用者が多い等の地域性に応じて、ひらがなを付記するなどの配慮を行う。

〔外国語の表記基準〕

表記の基準	具体例
原則として、固有名詞の部分をローマ字で、普通名詞の部分を英訳によって表記する。	新曽公民館 Niizo Community Center
バス停名称は、原則として普通名詞の部分も含めてローマ字で表記する。	Toda-eki-iriguchi
ただし慣用上固有名詞と普通名詞に切り離せない場合は、普通名詞の部分も含めてローマ字による表記とし、必要に応じて英字を付記する。	Arakawa Riv. Sasabune-no-michi St.
ローマ字の表記はヘボン式とする。(別表1) 和製英語や固有名詞で使われることがあり、ヘボン式のつづり方によらない表記は(別表2)の通りとする。	Ta chi tsu te to che fe je
長いつづりで読みにくい語は、適宜「-」(ハイフン)を用いてわかち書きとする。	Sasame-kita-cho
施設名称は原則として正式英訳による。 ただし、英語に慣用化されている略語がある場合は、これを使用してもよい。	
企業名などで、英文による略語が慣用化している場合はこれを用い、日本語の音や正式英訳を使用しない。	NTT Nippon Telegraph and Telephone Corporation Corporation

(別表1 ヘボン式のつづり方)

ヘボン式のつづり方

- ・備考は昭和29年12月9日付内閣告示第1号の「ローマ字のつづり方、そえがき」及び新村出編「広辞苑第四版」1991の「ローマ字のつづり方、ヘボン式の備考」による。
- ・備考2.4の符標は、明治18年に羅馬字彙「日本の有識者による書き方取調委員会」が発行した「羅馬字にて日本語の書き方」及び昭和21年4月1日付運輸省達第176号の「鉄道揭示規定、修正ヘボン式によるローマ字のつづり方」を参照した。

あ	い	う	え	お
か	き	く	け	こ
さ	し	す	せ	そ
た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
ま	み	む	め	も
や	ゆ	よ		
ら	り	る	れ	ろ
わ	ん			
が	ぎ	ぐ	げ	ご
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
だ	ぢ	づ	で	ど
ば	び	ぶ	べ	ぼ
きゃ	きゅ	きょ		
しゃ	しゅ	しょ		
ちゃ	ちゅ	ちょ		
にゃ	にゅ	にょ		
ひゃ	ひゅ	ひょ		
みゃ	みゅ	みょ		
りゃ	りゅ	りょ		
ぎゃ	ぎゅ	ぎょ		
じゃ	じゅ	じょ		
びゃ	びゅ	びょ		

a	i	u	e	o
ka	ki	ku	ke	ko
sa	shi	su	se	so
ta	chi	tsu	te	to
na	ni	nu	ne	no
ha	hi	fu	he	ho
ma	mi	mu	me	mo
ya	yu	yo		
ra	ri	ru	re	ro
wa	n			
ga	gi	gu	ge	go
za	zi	zu	ze	zo
da	ji	zu	de	do
ba	bi	bu	be	bo
kya	kyu	kyo		
sha	shu	sho		
cha	chu	cho		
nya	nyu	nyo		
hya	hyu	hyo		
mya	myu	myo		
rya	ryu	ryo		
gya	gyu	gyo		
ja	ju	jo		
bya	byu	byo		
pya	pyu	pyo		

備考

1. はねる音「ん」はnで表す。
但し m,b,p の前ではmを用いる。
2. はねる音を表すnと次にくる母音字またはyと切り離す必要がある場合はnの次にハイフン「-」をいれる。
3. つまる音は、次にくる最初の子音字を重ねて表すが、但しつぎにchがつづく場合にはcを重ねずtを用いる。
4. 長音は、母音字の上ば「ー」(長音符号)をつけてあらわす。なお、大文字の場合は母音字を並べても良い。
5. 特殊音の書き表し方は自由とする。
6. 文の書きはじめ、および固有名詞は語頭を大文字で書く。なお、固有名詞以外の名詞の語頭を大文字で書いても良い。

(別表2 ヘボン式のつづり方によらないローマ字表記)

和製英語や固有名詞で使われるヘボン式のつづり方がないローマ字表記
 ことがあり、ヘボン式のつづり
 方によらない表記は別表のとおりとする。

しえ				sye					
ちえ				che					
つあ	つえ		つお	tse	tso				
てい				thi					
ふあ	ふい	ふえ	ふお	fa	fi	fe	fo		
じえ				je					
でい				di					
でゆ				dyu					
いえ				ye					
うい		うえ	うお	wi	we	wo			
くあ	くい	くえ	くお	kwa	kwi	kwe	kwo		
つい				tsi					
とう				twu					
ぐあ				gwa					
どう				dwa					
うあ	うい	う'	うえ	う'	va	vi	vu	ve	vo
てう				tyu					
ふゆ				fyu					
づゆ				vyu					

レイアウト

〔文字組み〕

レイアウトの基本タイプ	使い分けの目安
横組み	最も一般的な組み方で、英文との併記も容易である。
縦組み	表示面の横幅を小さくしたい場合や、名所旧跡の表示等、日本語独特の組み方を積極的に活用する場合などに用いられる。
縦横組み併用	地点名称と施設誘導など、異なる情報を差別化するとき有効である。 ただし、過剰に行くと読みやすさを損なう恐れがある。

〔行合わせ〕

レイアウトの基本タイプ	使い分けの目安
頭合わせ	表示の重心が偏るために方向性が出しやすく、秩序感がある。
末尾合わせ	表示の重心が偏るために方向性が出しやすく、秩序感がある。
センター合わせ	安定感があり、施設の名称サインなどに多く用いられる。
均等合わせ	字間を変えて左右を均等に合わせる方法は、単語をかたまりとして認識しにくいので、避けたほうがよい。

〔和英併記〕

英文を表示する場所は、和文の下や横が一般的であるが、情報量が多い場合には別記が望ましい。

		レイアウトの基本タイプ	使い分けの目安
和英併記	横組み	(別行) 頭合わせ、末尾合わせ、センター合わせ	一般的な組み方。
		(同行) 下合わせ、センター合わせ	
	縦組み	(別行) 頭合わせ、末尾合わせ	
		(同行) センター合わせ	
和英別記			情報量が多い場合には、別記が望ましい。

地図

〔範囲、縮尺、向き〕

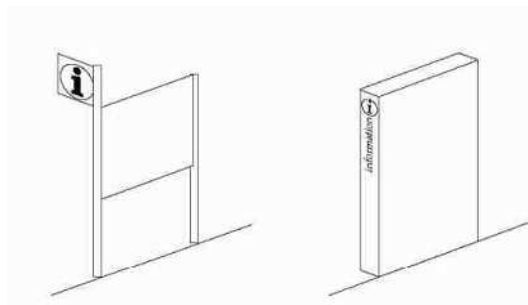
案内サインは、広域案内図、地区案内図(周辺案内図と区域案内図との中間に位置する案内を行う)、周辺案内図(徒歩圏を詳細に案内する)の3つに分けられる。以下に、地図の基本的な目安を整理する。

(範囲、縮尺、向きの目安)

	広域案内図	地区案内図 / 周辺案内図
範囲	5～10km 四方	0.5～2.5km 四方
縮尺	1/5000～1/20000	1/1000～1/2500
向き	北を上	サインに向かって前方を上

〔インフォメーション・マーク〕

動線と平行な向きに掲出する場合は、できるだけ延長方向から視認できる箇所に、その位置に案内サインがあることを示すインフォメーション・マークを掲出する。



〔色彩〕

案内サインの地図等の図示に際しては、自然に見える色彩を用いることとする。河川などの水系は青を、河川敷や公園・緑地は緑をそれぞれ基調とする。

掲載情報

〔誘導サイン〕

サインの氾濫防止のため、誘導サインに表示する施設は下表のうち必要なものとする。

項 目	誘導サインに表示する施設	ピクトグラムの表示
交通施設	鉄道駅	○
	バスターミナル	
交通拠点サービス施設	公衆便所	
	案内所	
文化施設	文化会館	
	博物館	
	ホール	
	公立図書館	
スポーツ施設	漕艇場	
	野球場	
	スポーツセンター	
公園・緑地	都市基幹公園以上の規模の公園	
行政施設	中央官庁又はその出先機関	
	市役所	
	警察署	
	消防署	
	税務署・法務局	
	郵便局	
医療福祉施設	病院	
	地域福祉センター	
	大規模な福祉施設	
避難場所・避難所	避難場所	
	避難所	
大規模集客施設	競艇場	
史跡・名勝	国・県・市指定文化財・史跡	
	名勝として重要な神社・寺院等	

〔広域案内図〕

地域全体の構造や、街の骨格となる交通機関を把握を促すためのもので、掲載情報は、原則として、地勢、地名、道路、交通機関などを中心に表現し、個々の施設は、ランドマーク性のあるものや主要な公共施設に限定する。

項 目		掲載が望ましい施設等	個別に掲載を検討する施設等
地勢	地勢	河川、湖、池など	
地名等	自治体	隣接する都道府県名、市区町村名	
	住居表示	町名	
道路等	道路名	高速道路、国道、通り名称のある道路	
	地点名	インターチェンジ 主要な橋	
交通施設	鉄道	鉄道路線、鉄道駅	
	バス・タクシー	バスターミナル	
公共施設	行政施設	市役所 警察署、消防署、郵便局	税務署、法務局、保健所 等
	公園・緑地	地区公園以上の規模の公園	
	医療施設	公立の病院、総合病院	
	福祉施設		地域福祉センター 等
	文化施設	公的機関が運営するもの	
	スポーツ施設	移動の手掛かりになる大規模なもの	
	集客施設	競艇場	
史跡・名勝	史跡・名勝	特に著名なもの	

〔地区案内図、周辺案内図〕

街の構造把握を促すとともに、目的地へ至るための具体的な手掛かりを表示する。

（地区案内図、周辺案内図の掲載基準）

項 目		掲載が望ましい施設等	個別に掲載を検討する施設等
地勢等	地勢	河川、湖、池 等	
	人工物	水門	
地名等	自治体	市区町村	
	住居表示	町名	街区番号、住居番号
道路等	道路名	高速道路、国道、通り名称のある道路	
	地点名	インターチェンジ、主要な橋、主要交差点	
交通施設	鉄道	鉄道路線、鉄道駅	
	バス・タクシー	バスターミナル	バス路線、バス・タクシー乗り場
	その他		公共的な駐車場 公共的な駐輪場
公共施設	行政施設	市役所、警察署、消防署、郵便局、税務署、法務局、保健所 等	先施設の出先機関
	公園・緑地	近隣公園以上の規模の公園	児童公園
	教育施設	小・中・高等学校	幼稚園、保育園、各種学校
	医療施設	公立の病院、総合病院	左記以外の救急病院
	福祉施設	福祉事務所、老人福祉施設、児童福祉施設 等	
	文化施設	図書館、博物館、文化会館、ホール 等	
	スポーツ施設	漕艇場、野球場、スポーツセンター 等	
	集会施設	公民館 等	
公共的施設	金融機関		都市銀行、地方銀行等の本支店
	公益企業		電話、電気、ガス関係企業の本支店
	その他	商工会、観光協会、各種団体 等	
史跡・名勝	史跡・名勝	国・県・市指定文化財・史跡、名勝として重要な神社・寺院等	
民間施設	宿泊施設	一定の規模以上のホテル、旅館等	
	商業施設	第一種または第二種大規模小売店舗 単一の名称を持つ商店街 等	
	その他	移動の手掛かりになるビル、工場、団地 等	

照明

夜間の視認性を確保するための照明器具として、以下のものがある。

内照式サイン	照明器具を組み込んで、内側から照らし出す方式 (特徴) 外照式に比べ誘目性が高い。
外照式サイン	外側に照明器具を設置して表示面を照らす方式 (特徴) 器具厚を必要としないため、内照式と比べ、環境に調和しやすい。
無灯式サイン	パネル等で特に照明を必要としないもの。

視覚障害者・聴覚障害者を考慮したサイン

点字や、触地図、点字ブロック、盲人用信号機等の他、近年、以下のようなサインが開発されているが、今後は、いずれのサインを用いる場合も、視覚障害者・聴覚障害者を含む多くの利用者にとって有益なサインとなるよう、ユニバーサルなシステムとして定着することが望まれる。

〔音声信号〕

視覚障害者を考慮したシステム。タッチスイッチ音声案内システム(手すりにタッチすると、行く先などを音声案内するシステム)、音声標識ガイドシステム(小型送信機のスイッチを押すと、公共施設の玄関などから施設名称を音声で流すシステム)、視覚障害者誘導システム(磁気標識体を専用白杖でたどると、分岐点で流れる音声案内で目的地へ誘導するシステム)、音声触知案内板(触知案内板に音声案内機能を付加した案内板)がある。

〔磁気ループ〕

聴覚障害者を考慮したシステム。床面に敷設した動線(ループ)にマイクロホンなどからの音声信号を流すと、磁界内にいる補聴器を付けた人が、マイクロホンの音を耳元で直接聞くことができる音声伝達システム。

〔電光表示板〕

大きさや表現など、仕様は様々である。聴覚障害者ばかりでなく、弱視者や健聴者にとっても、有効な情報入手手段になっている。

〔フラッシュライト〕

聴覚障害者を考慮したサイン。色分けられたフラッシュライトを用い、光のサインにより情報を伝達する。

〔バイブレータ〕

聴覚障害者を考慮したサイン。振動により情報を伝達する。緊急時のサインとして、視覚的に用いられるフラッシュライトと同様の機能を担うことができる。

4 メンテナンスシステム

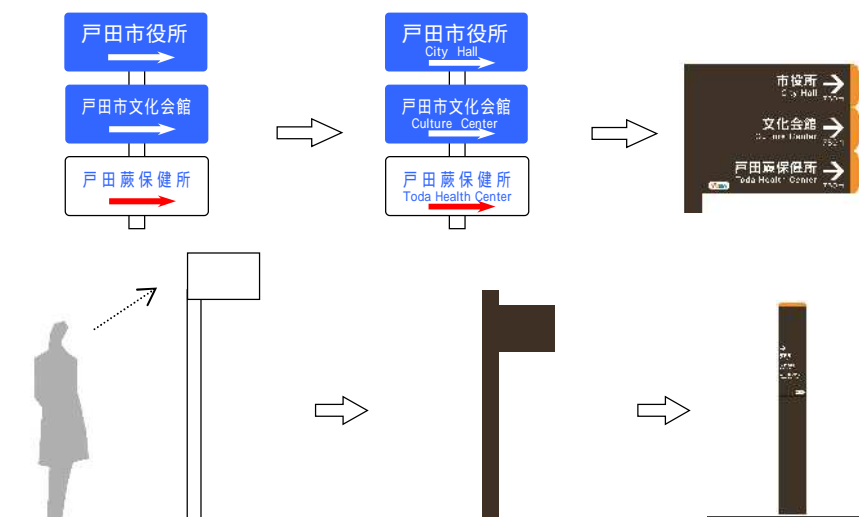


既存の公共サインは、整備担当課によって本体や表示面のデザインが異なっており、情報の煩雑化や、景観の阻害等の悪影響を招いている場合がある。また、公共サインはその性格上不特定多数の利用が想定されるが、障害者や高齢者等に配慮されていないものも多い。さらに、公共サインは主に屋外に設置されるため、年月の経過により汚損や劣化し、また案内先施設の新設・撤去等により表示内容を随時変更する必要もでてくる。

このような状況に円滑に対応し、ユニバーサルデザインの視点を基本としながら、サイン機能を維持していくため、メンテナンスシステムとして「段階整備」「維持管理」について、以下に整理する。

1 段階整備

手法

既存の公共サインを、一度に新規整備することは現実的に難しい。このため、ここでは、既存の公共サインの段階的な整備手法について整理する。

<p>適正化</p> <p>公共サインの質的向上を図り、障害者や高齢者、外国人等のより多くの利用者が分かりやすいデザインにする</p> <p>〈例〉音声案内、外国語表記、本体設置位置の適正化等</p>	
<p>統一化</p> <p>複数の公共サインの表示内容やデザインの統一化を図り、誘目性を確保するとともに、質の高い景観形成に貢献する</p>	
<p>集約化</p> <p>隣接する複数の公共サインの表示内容を集約化し、本体・支持体の共有を図り、情報を効率的に提供するとともに、質の高い景観形成に貢献する</p>	

体制

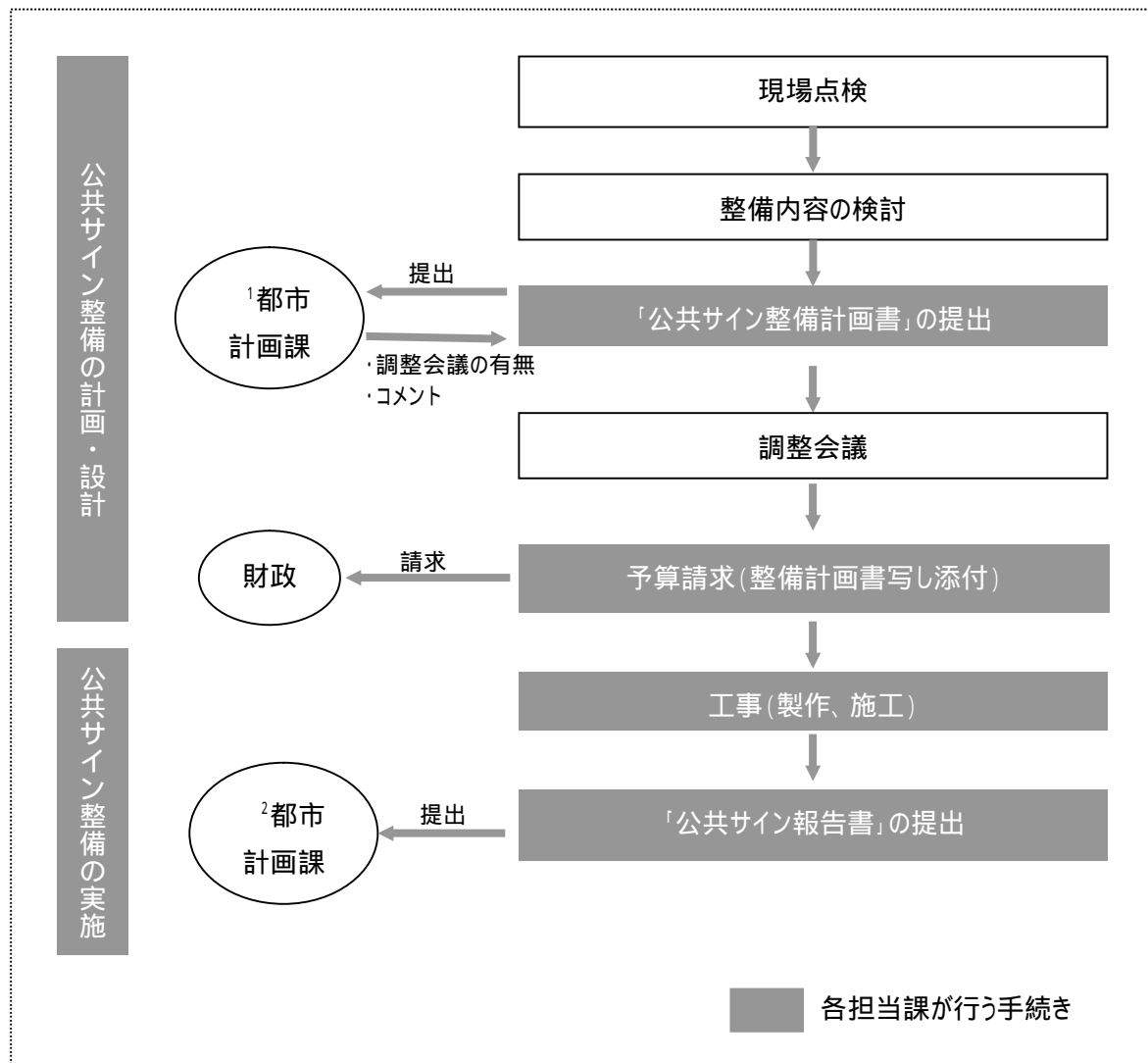
段階整備は、それぞれの公共サインを整備した担当課が行うことを基本とする。

(表示面の情報更新の具体的手法)

サインの種類	具体的手法	適応性	特 性
道路標識系 (反射シート利用のもの)	部分プレートの交換 (反射シート+アルミ板)		必要部分だけアルミ板に反射シートを貼った修正プレートを作り、現場でリベットにより留める。 (剥れる可能性があるため標識の反射シートを現場で貼らず、通常は機械で貼る。)
塗装加工のサイン	部分塗装		既存盤面の状況次第。職人による現場作業で、乾燥に1日程度かかるため、作業に手間がかかる。
	カッティングシート(切り文字)	×	既存盤面の状況次第であるが、一般的に表面が劣化しており、はがれる可能性が高い。
	全面シート		
印刷、エッチング加工等のサイン	カッティングシート (切り文字)		文字の形に切り取ったシートを貼る。シートの種類はメーカーによりいくつかあり、個々で相談の必要あり。 色数:シート種類により変わる。 費用:主に修正箇所の面積及び色数により決まる。 耐候年数:シートの種類により多少違いは出てくるが、おおよそ5年程度。
	全面シート		既存盤面の状況次第。まがり、凹凸等がなく状態のよいもの(設置から2~3年程度のもの)であれば可能。プレート交換より安価でできる。
	クリアフィルム	×	粘着力が強いため、屋内もしくは工場内で作業が必要であり、既存屋外サインの修正作業にはあまり適していない。 (水で気泡を抜きながら2~30分かかる。)
	部分塗装	×	一般的でないが、既存板面の状況次第(シートの種類、盤面の状況)で可能な場合もある。

手順

各担当課は以下の手順に従って行う。



1 提出された計画書に対し、必要に応じて関連各課を召集し、調整会議を開催する。集約化の可能性についても考慮する。

2 都市計画課はこれらを集約し、データベース化する。

(提出書類の主な内容)

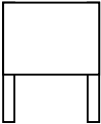

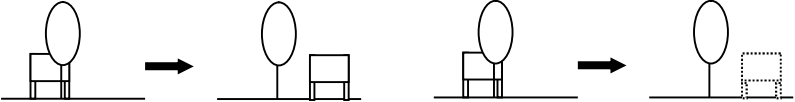



「公共サイン整備計画書」	1. 公共サイン現況 2. 公共サイン整備目的 3. 公共サイン整備内容
「公共サイン報告書」	1. 実施概要 2. 実施写真

2 維持管理

手法

公共サインの機能を維持するため、定期メンテナンスを行う。周期は、1年及び5年周期とする。

各担当課は、定期メンテナンスの際、「清掃」「修繕・交換」「変更・更新」「移設・撤去」等に取り組む。

	手 法	詳細内容
本体・支持体 	清 掃	汚れや埃を清掃する。
	修 繕 ・ 交 換	 <p>ガタツキ ボルトの締付状況を確認・修繕する。 ただし、安全性に不安のある場合には、部品を交換する。</p> <p>破損状況 傷、変形等の状況を確認・修繕する。 ただし、サインの機能に支障をきたすものについては、部品を交換する。</p> <p>塗装状況 傷等による塗装の一部のはがれなどは、塗装補修する。 ただし、状況に応じて全面再塗装あるいは部品を交換する。</p>
	移 設 ・ 撤 去 等	街路樹の成長でサイン機能に支障をきたした場合や横断歩道の新設等で通行障害となった場合には、街路樹の刈り込み、もしくはサインの移設、撤去等により調整をはかる。 
表 示 面 	清 掃	違法な張り紙や落書き等を取り除き、表面を清掃する。
	修 繕 ・ 交 換	表示面の褐色状況や部分修正が多い場合、表示面の再塗装、全面シートの張り替える。また、表示面の破損状況がサイン機能に支障をきたす場合には、表示パネルの交換する。 
	変 更 ・ 更 新	施設名の変更や施設の新設、撤去等の都市の変化に合わせて、修正用シートで表示内容を変更・更新する。 ただし、状況に応じて、表示面の再塗装、全面シートの張り替える。 

体制

維持管理は、それぞれの公共サインを整備した部署が行うことを基本とする。

手順

各担当課は以下の手順に従って行う。

